
初夢恋

四燠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初夢恋

【Nコード】

N6529P

【作者名】

四燠

【あらすじ】

好きなのに伝えられない。本気で好きなのに

(前書き)

あまい。というわけじゃないんだよね

好きな人がいる。

でも、伝えられない思い。

会って言う台詞は「バカ！」とかばかりで嫌われてしょうがないように行動してる。

好きなのに。

本気で好きなのに。

僕にとっての初恋の相手。

ひとつも嘘なんかない。

本気でキミに恋してるから。

そんなときキミが僕のことを嫌いじゃないという話を聞いて
むしろ好かれていたらしいということを知って

――ねえ、嫌いになってくれた？

そんな思いをいつまでももっていたら。

いつのまにか“夢”を見た。

それは僕がキミに「嫌い。」って言われる夢。

そこで目が覚めた。

いや、違うかな。

目を覚ましたんだ。

自分の意志で。

この先が怖いと思って。

この“夢”がいやだと思って。

今まで望んでいたはずのことなのに。

怖いと思ったんだ。

いやだと思ったんだ。

でも、僕はまだキミに嫌われたいと思っている。

ただひとつだけ分かるのは学校に向かっていること。

横には誰か分からないでも、どこかで会った気がするやつ。

そしていつの間にか学校について。
好きな女子に呼び出された。

そして――

「好きだ。付き合え！」
と命令口調で笑いながら言われた。

「はあ？」問いつてなにか理由を聞こうといしたら。
あっさり無視された。

そしてこういつてどこかにいった。

「また聞きにくるから」と、

そしてその後横にいた奴が
「やったじゃん」といいながら肩を叩きどこかにいった。

そしておれは授業中のずっと考えていて、なんて言おうかずっと考えていて

――そこで終わった小さな夢

おれ自身があのとどう考えらるものすごい怖い。
けど、目が覚めたときおれはうれしいと思った。

よくわかんないな。

深層心理ってやつかな？

ちなみに今回の夢で最後に考えていたことは、

「付き合ったら何するんだろ」とか、

「帰り道とか一緒かな」とか、

ばかりで陽気な発想ばかりしていたんだな。

現実ではそれが有り得ないと言うことが唯一の助けかな？

dy12/26

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6529p/>

初夢恋

2011年1月3日18時36分発行